

日本の食の安全特別コース

Progress 日本食の安全人材育成プログラムの現状と展望

日本国内の新型コロナウイルスの感染が少し落ち着き、従来の社会活動が徐々に再開されようとしています。新型コロナウイルスの有効期間が過ぎると再度感染者が増加するかもしれませんので、グローバル展開を計画されている企業活動も今後のコロナの動向を注視しながらになるかと拝察申し上げます。

本コースも2年間停止していた海外での留学生募集活動が再開する時期が近づいているような印象です。一時は国際会議もリモートでの開催が増え、ドイツとの会議では夕方にも関わらず、朝の挨拶からスタートする会議も体験しました。リモートでの会議等では画面を通じて接する機会が増え、性別、年齢、国、社会環境の違いなど、様々な「違い」を目の当たりにする機会が増えています。日本人の常識というスタンダードと信じていた風習が通用しない新たな働き方の始まりとなる時期なのかもしれません。リモート会議や在宅勤務が推奨される中、社内教育はどうするのかなど、課題は山積していますが、新しい働き方が採用でき、それを活用できれば社会の求める会社となるのかも知れません。

このような社会の変革の時期に留学生を採用してみたいか、かたがたか？中には留学生の行動に戸惑われる方もいるかも知れません。しかし、そこに多様性の課題があるわけですから、その課題を認識した上で共に生きる社会の実現に留学生と取り組む事が求められているのではないかと感じます。今後とも本コースをよろしく願います。

(田村教授)

News 新型コロナウイルスパンデミック下での学生募集戦略 2021 & 2022

緒言…新型コロナウイルスの世界的な感染拡大状況下において、日本の食の安全特別コースの採用は非常に困難である。2022年10月の採択(14期生)のため、2021年10月の採択(13期生)がわずか1人であった理由を理解する必要がある。

背景…効果的な採用方法としては、1)農学部との夏交流プログラム、2)採択先として有望な大学の訪問、の2点であるが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。外務省が外国人の入国を禁止したため、世界からは日本の安全性は懐疑的なものであった。

コースの必要要件が難しいため、採用される学生は限定される。①日本語で学ぶ、②日本で働く、③来日前に勉強を開始する、④少なくとも日本で5年過ごすことが必要となる。

私は連係先の大学に日本の食の安全特別コースに関する議論やプレゼンテーションをオンラインで実施するよう調整を進めたが、ほとんどの連係先大学には来日に関心のある学生が少なかった。私は2カ国から40人の参加者にむけてZoom会議を3度開催した。



オンラインで説明会を実施

- 1) 連係先大学に早期の連絡を行った(6月)
 - 2) 日本の新型コロナウイルスの感染状況について詳細に説明した
 - 3) 参加場所を問わず学生の参加を奨励した(大学、自宅、カフェなど)
 - 4) Zoom会議を早い時期により多く実施した(8月上旬)
 - 5) 各国、各大学向けに内容を調整した
 - 6) 対象国出身の在校生にプログラムについて説明してもらった
- 私は5つのZoom会議を開催し、計130人の参加者となった。候補学生や彼らの先生との良好なコミュニケーションは非常に重要である。今後への学び…オンラインコミュニケーションは有用であるが、対面での人と人との直接的な交流が非常に重要であり、学生が日本で成功を収め、職を得ることに対する信頼・自信につながる。
- 今後は、対面での講義を実施後、それをフォローする形でのオンライン会議の実施を取り入れたハイブリッド型のアプローチが最善の方法だと思う。
- (ルーツ准教授)

Report 11期生修了式・13期生入学式

令和3年9月17日(金)、香川大学大学院農学研究科において11期生の修了式が執り行われました。新型コロナウイルスの影響で出席者を学内関係者に限定し、修了生のご家族や関連企業へはZoomでの配信で開催いたしました。算学長より4名の修了生に学位記が授与され、門出のお祝いとして温かい激励の言葉も贈られ、修了生一同新たな旅立ちの歓びを感じていました。4名全員それぞれに就職先も決まり、今後の実社会での活躍が大いに期待されます。



11期生修了式



13期生オンライン入学式

式セレモニー、オンラインでの行事進行に緊張し、戸惑いながらもお祝いの言葉に励まされ、新たな夢を実感しているようでした。

最後にミンさんから、これから始める日本での新生活に向けての力強い決意表明がありました。

(樋口特命教授)

News 13期生の紹介



NGUYEN Minh Quang
グエン ミン クアン
ハノイ工科大学卒
ベトナム出身



今後の抱負

日本は食品科学の高度な技術を持った先進国なので、ここ香川大学で勉強する機会を持てたことに本当に感謝しています。将来は日本の食品会社で働きたいです。

Review 留学生採用企業様よりメッセージ

弊社は広島市安佐南区に本社を置く食品メーカーです。主な商品はロングライフな業務用のお惣菜や佃煮で、外食産業や学校給食など幅広いお客様に国内6か所の営業拠点から商品をお届けしています。

海外事業展開としては、タイに子会社(TND FOODS INDUSTRY CO.,LTD.)があります。タイを中心としたアジア諸国から原料を仕入れ、和惣菜などを製造し、日本及びタイ国内、近隣のアジア諸国に販売しています。

2013年以降、日本の食の安全特別コースから5名の方が入社されています。入社後は、①食品の専門知識を生かして本社で活躍、②食品と語学の知識を生かしてタイ工場運営の中心として活躍と、二通りの働き方を期待しています。卒業生の方々も、本社研修で食品製造のノウハウ(主に品質・生産の管理手法)を身に付け、タイ工場を含めた各部門へ配属後、それぞれの分野で活躍しています。

5期生のティアンヒラン ティーラドンさんは、入社後2年半の本社研修の後、タイ工場に赴任。現在ではタイ工場の副ゼネラルマネージャーとして会社全体の運営に携わり、新商品開発、製造・品質・人事管理など幅広い業務を行っています。

在校生の方々におきましては、食品の安全管理の勉強はもとより、日系企業への就職も多いと思いますので、日本語もしっかり学習していただければと思います。卒業後は食品製造のリーダーとなっていただくことを心より願っています。

(堂本食品 開発部 企画室 垣内達彦様)



~1914年創業 感謝のところで107年~
カワイチ 堂本食品株式会社